



校報

水糸者

No. 1232

元年度・第91号

鉄棒に群がる種小っ子

今年も

この頃、校庭の鉄棒がにぎわっています。

体育の授業だけでなく、中休みや昼休み時間は勿論、登校したての子も鉄棒で遊んでいます。

体育の時間の鉄棒学習の時には、大歓声が校長室まで響いてきます。

皆さんは、小学校時代に学んだ「鉄棒運動」には、どんな思い出がありますか。

クルクル回り、みんなから喝さいを浴びた楽しい思い出をお持ちの方も当然いる事でしょうが、「痛い」や「できない」、「目が回る」、「みんなの前でできなくて



恥ずかしかった」など、楽しくない、嫌な思い出も多いのではないのでしょうか。私も器械運動が大の苦手で、体育の授業が苦痛と感じた時期が長くありましたので、その気持ちはよくわかります。（逆上がりができたのは、何と高校の時です！）

種小っ子達は、休み時間になると、鉄棒に集まり楽し気に遊んでいます。今の時代も「花形種目」は『逆上がり』のようで、練習を繰り返し手のひらにできたマメを誇らしげに見せる子もいます。



今日も鉄棒は人気！

※小学校の体育で、「逆上がり」に至る学習の道筋は、以下のとおりとなっています。

区分	学習の名称	主な学習内容
1・2年生	鉄棒を使った運動遊び	・跳び上がりや跳び下り ・ツバメやふとん干し、こうもりなど ・易しい回転
3・4年生	鉄棒運動	・補助逆上がりなど（この技の例示の中に、発展技として「逆上がり」が示されています）
5・6年生	鉄棒運動	・支持系；後方支持回転技群 ほか （この技群の例示の中に、「逆上がり」が示されています）

この事でもわかるように、1年生や6年生で、突然「逆上がり」をやるのではなく、体育学習だけでなく雲梯（うんてい）や肋木（ろくぼく）、ジャングルジムなどの遊びで、学年の発達段階に即した「逆さになる感覚」や体を支える「支持感覚」、タイミングよく全身を使う「巧緻性」や「瞬発力」などの獲得機会を十分に与え『蓄え』をつくるなどの計画的な『体の耕し』が大切です。そして、低学年では「運動が楽しい」、中学年では「運動が好き」、高学年で「運動が得意」な子へと、長い目で育てていく事が大切です。「逆上がり」は6年間の諸々の運動経験と情意面の充実を経て、1つの技として完成されていくのです。



休み時間、色々な遊具で遊ぶ種小っ子。そのような遊びを通して子どもの体は耕やかされ、巧緻性や柔軟性、瞬発力など『健康寿命』にも関わる能力が養われていくのです。非日常的な多様な動きと遊びが、子どもの頭と体を耕すのです。

体育は「できる」、「できない」がみんなの前でさらされる教科でもあるので、嫌いな教科に挙げる子ども達もいます。また、「できた」、「できなかった」といった出来栄だけの担任や友達からの評価だと、多くの体育嫌いを生み出すことにもなります。頑張っているのに友達に笑われてしまう学級だと、子どもは最後までしっかりとやり切らないと思います。

種小っ子たちがここまで鉄棒に熱中する姿から、種小の『幹と根っこを育む教育』の確かさを感じています。

本校には昭和の木造校舎時代から脈々と受け継がれてきた「わからん時は、おしえっこ、うれしい時は、はしゃぎっこ、困った時は、たすけっこ」の校風があります。

種小っ子の笑顔のために、今日も1歩ずつ実践を重ねていく種市小学校です。



みんないきいき 9月の種小っ子

～わからん時は教えっ子・うれしい時ははしゃぎっ子・困った時は助けっ子～



洋野町健康づくり大会で表彰される種小っ子。代表して3年生の小柏さんが、町学校保健会の磯崎一太会長さんより賞状が授与されました。

お巡りさんや地域の方から見守られながら登校する種小っ子。いつも見守っていただきありがとうございます。



本校自慢の「子どもを支援する会」の活動「久慈平岳登山」に参加した皆さんは、秋晴れの山頂からの景色に歓声をあげていました。

【訂正・お詫び】

10月2日発行の校報1230号で、校内マラソン大会の延期日を、10日と掲載しましたが、正しくは11日(金)の誤りです。お詫びして訂正いたします。